

低温・乾燥対策の技術対策

茶

【事前対策】

- ・茶株を保温用被覆資材で、トンネル状に被覆することにより、寒干害の発生の原因となっている寒風を弱め、蒸散量を抑える。
- ・ソルゴー等により、冬から春先にかけて季節風の強く当たる方向に垣根を設置する。
- ・寒干害を受けやすい幼木園では、株元から両側に30～40 cm程度に稲わらや萱を敷き込む。

【事後対策】

- ・被害が少ない茶園場合
3月中旬までに化粧刈りを実施し、軽く摘採面を揃える。
- ・被害が中程度の場合
春整枝実施予定園では、枯れた葉の下に緑葉が残っていれば、普通に整枝を行う。
秋整枝実施園で手直しを必要とするところでは、3月下旬までにごく浅く株ならしを行い、枯死部の褐変葉や木茎を刈り落とす。目安は、秋整枝面より2cm以内で刈り込む。
- ・被害が大きい場合
枯れた部分が7～8割で緑の部分が2～3割の茶園では、一番茶を取ることを考えて、ごく浅く株ならしを3月下旬に行う。目安は、秋整枝面より2cmほど刈り込む。なお、枯れた部分のみの刈込みは機械刈りしにくいのでしない。
一番茶の摘採が不可能なほど被害が甚大な場合は、深刈りまたは中切り更新を行う。

※ 作業中及び見回り時に事故に遭わないよう十分に注意し、安全を確認の上、ほ場や施設の管理を行ってください。